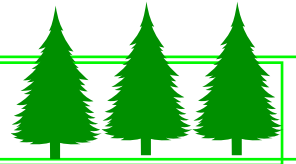




みつぎ便り



第213号 6月号 令和6年6月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



アメリカフウロ

私が「アメリカフウロ」と出会ったのは、数年前エコポリスセンターで開催されていた「荒川の植物写真展」でした。配布していた数枚の葉から、小さな薄ピンクの花の写真のものを選びました。初々しい感じがかわいらしく感じたからです。

アメリカフウロと知ってからは、散歩の時など草叢で見かけるようになりしました。図鑑で調べると道端でよく見かける種類とありました。花言葉は、だれか私に気づいてとあるように、1cmぐらいの小さな目立たない花です。切れ込みの深い葉が見



つける時の目印です。名前からわかるとおり、北アメリカ生まれの帰化植物。昭和初期、京都府伏見区の深草で発見されたそうです。

見次公園ではバス通りの選挙ポスター掲示板設置場所近くの入り口で見つけることができました。五月中旬過ぎに見に行くとまだ花はなく黒い種が五個星形に並んでいました。種子だけで増えるのではなく茎が枝分かれして、横に這って株を次々と作ることも日本に広がることのできた理由の一つでしょう。
(敦)

アキニレ

ハルニレ、という言葉はレストランやホテル等の名前に用いられ、馴染のある方も多いと思いますがアキニレ？は余り知られていません。

ハルニレはエルムとも呼ばれ、特に北海道では親しい樹木です。広々とした大地にすつくと立つハルニレはその風景にピッタリだからかもしれません。その点アキニレは都市の植込みや庭木として、目立たない樹木なので、知られる事が少ないのでしよね。

見次公園のバス通りに面したところには、二本のアキニレが植わって



います。まだ若木で目立たないので、小さな鋸状の葉をいっぱい付けています。この葉を良く観ると赤い小さな粒が所々に見られます。これはムシコブです。この殻の中にアキニレスジワタムシというアブラムシの一種が眠っていて、秋には成虫に成って飛び出していくのだそうです。樹はその頃、ハルニレと同じように小さな薄桃色の花を細い枝に隠れるように付けます。

秋になったらアキニレの目立たない花を探してみるのも面白いかもしれませんね。

(静)